



# ふくせんレポート

2019

6|17

創刊0号

2面	FJC協会臨時総会開催
3・4・5面	バリアフリー 2019 特別講演「ふくせんシンポジウム2019」
6・7面	住宅改修事例 「中途障害者の自立を目指した住宅改修 水廻り編」
8面	全国ブロック長会議開催



臨時総会の様子

福祉住環境コーディネーター協会（以下、FJC協会）は平成31年3月6日、臨時総会を招集し、理事会より提案された協会を解散する決議を了承。同年3月31日に解散した。

協会の解散については、平成30年5月29日に招集されたFJC協会の会員総会において、平成31年春で解散する理事会の提案が報告されていた。事前に解散後の会員受け入れや関連事業の引継ぎ等の打診を受けていた本会は、同会員総会に出席して準備状況を報告。さらに平成30年6月22日の定時社員総会において定款の変更を決議し、平成31年4月より新たな会員区分として、福祉住環境コーディネーター検定試験合格者を対象とした「FJC会員」を創設した。

本会には、これまで545名のFJC会員が新たに仲間に加わった（令和元年6月1日現在）。平成から令和へと新たな時代の幕開けとともに、FJC会員と合流した新生ふくせんがスタートする。

## FJC会員を仲間に加え 新生ふくせん誕生へ

「ふくせんレポート」  
新創刊にあたり

一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会

理事長 岩元文雄



みなさん、  
4月1日から  
福祉住環境  
コーディネー  
ター検定合格

者の方々を、ふくせんの仲間としてお迎えすることになりました。新たな「ふくせん」の誕生です。在宅での生活環境を実現するためにも、福祉用具と住宅改修を総合的に提案できる専門職が不可欠であり、その専門職としてふくせん会員が活躍できればと考えています。そして「旧ふくせんレポート」と「情報誌FJC」の両会報誌を合併し、新たな会報誌「ふくせんレポート」を創刊致します。ぜひご愛読いただければ幸いです。

**FJC協会臨時総会でふくせんの事業を説明**

# 福祉用具専門相談員と

# FJCが結びつくメリットを強調

**スキルアップセミナーなどは  
本会で引き続き実施へ**



山本 一志 氏  
(やまもと かずし)  
本会事務局長

臨時総会に出席した本会の山本一志事務局長は、FJC協会が会員に行ってきた業務の移管、会費などについて、次のように説明した。

業務移管に関しては本会でワーキングチームを設置し、真摯に検討してきた。FJC協会が行ってきた会員サービスのうち、**スキルアップセミナー、タウンミーティング、情報誌『FJC』**などについては、形を変えながらも継続していく。また、研修に関しては、全国37都道府県に本

会の地方組織があり、各ブロック地域で研修会を開催している。当然ながらFJC会員も本会の会員として参加していただけるので、あわせて紹介したい。

一方で、見学会・体験会については、これまでFJC協会においては関東地域を中心に開催しており、ふくせんとして全国的に展開が可能かという観点から継続を断念した。ただ、会員から申請があれば、スキルアップセミナーの枠をもって対応を検討する。FJC受験対策セミナーについては、実施団体と協議をしたが、今年度の実施は未定とのことであり、本会とし



▲ FJC会員となることで、受けられるサービスや会費などの説明を行った。

ては対応しない。

FJC会員の会費は、平成31年4月から令和3年3月末までの2年間で年5000円とし、令和3年4月より正会員と同様に年1万円とする。これはFJC協会の年会費が5000円だったことから、会費の急上昇を緩和するとともに、

この2年間でFJC協会の業務移管に関する移行期間と位置づけたものである。

## 福祉用具と住宅改修は 自立支援の車の両輪

その後の質疑応答で本会に加入す

るメリットを問われた山本事務局長は、在宅における自立支援において車の両輪ともいえる「福祉用具」と「住宅改修」の専門職が一つの団体に所属し、活動する意義を強調。今後の希望的な観測とした上で、「ふくせんの研修は福祉用具が中心で、FJC協会の研修は住宅改修が中心であったかもしれないが、FJC会員が合流することによって、両方の会員にとってメリットが大きい研修体制が整備されるものと考えている」と述べた。

### FJC協会からの業務移管

#### 継続業務

- スキルアップセミナー** → 委託団体との委託条件を変更して継続
- タウンミーティング** → 委託団体との委託条件を変更して継続
- 情報誌『FJC』** → ふくせんレポートと合併し、新たな誌面で継続
- 福祉住環境サミット** → 後援名義は継続。かかわり方は今後検討

#### 未継続業務

- 見学会・体験会
- FJC 受験対策セミナー
- FJC 会員検定試験合格者と協会会員の集い



バリアフリー2019 4/18・19・20 三大阪

特別講演 ふくせんシンポジウム2019

# 「福祉用具専門相談員への提言」

平成30年制度改正と更新研修（ふくせん認定）を通して

去る平成31年4月18日（木）、バリアフリー2019（於：インテックス大阪）の1日目には、恒例となっているシンポジウムを開催した。2019年のテーマは「福祉用具専門相談員への提言」。いよいよ全国各地での開催が本格化する「福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）」と、平成30年制度改正を改めて振り返り、これからの福祉用具専門相談員の在り方、果たすべき社会的役割などを考えるイベントとなった。

開会にあたり、本会の岩元文雄理事長は、開場待ちの列ができるほど、高い関心をもって集まった参加者に感謝の意を表したうえで、「平成30年度老健事業『福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業』の中で見えてきた福祉用具専門相談員の専門性に対する期待につ



岩元 文雄 氏  
（いわもと ふみお）  
本会理事長



長倉 寿子 氏  
（ながくら ひさこ）  
厚生労働省老健局高齢者支援課福祉用具・住宅改修指導官  
介護ロボット開発・普及推進室  
室長補佐

いて、ともに考えていきたい」とした。

ご臨席くださった厚生労働省老健局高齢者支援課福祉用具・住宅改修指導官の長倉寿子氏からは、「高齢者や障害者が、多くの支援がある中から何を選べばいいのか、ということ、皆さん福祉用具専門相談員

に求められる役割は非常に大きい。皆さんが自分たちでその足場を固めようとしている、その活動をともに推進していきたい」と力強い言葉をいただいた。

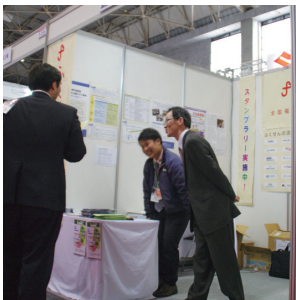
## 第1部 基調講演

### 福祉用具専門相談員の 新時代

介護保険制度の福祉用具サービスを提供するため、有資格者自身が見定め追求してきた「専門性」。

第1部基調講演では、本会創設時より理事を務める白澤政和氏が、福祉用具専門相談員のこれまでの歩みを振り返り、講演を行った。

その他の介護の専門職は、介護保険制度創設時には、既に専門性を有していた。しかし福祉用具専門相談員は、介護保険制度の中で、そのサービス提供のために生まれた資格であり、日々の業務の中でその果た



本会のブースでは、パンフレット・資料の掲示、配布のほか、賛助会員各社の協力のもと、スタンプラリーを開催しました。多くの方に訪れていただき、ありがとうございました。



平成31年4月18日（木）～20日（土）に開催された「バリアフリー2019／慢性期医療展2019／看護医療展2019／在宅医療展2019」。3日間の来場者数は、4展合計で88,512人でした（4/23バリアフリー展事務局速報）。



**白澤 政和 氏**  
(しらすま ささかず)  
国際医療福祉大学大学院教授  
本会理事

すべき役割を自ら見定めてきた。そして、そこに必要とされる専門性の確立と、福祉用具サービス全体の質を向上に欠かせない人材育成を目指して創設されたのが職能団体である本会「ふくせん」である。これまでの主な活動成果としては、福祉用具サービス計画作成の体系化・制度化。福祉用具サービス計画書と同様に、モニタリングの様式を作成し、PDCAサイクルを確立したことなどが挙げられる。また、福祉用具専門相談員の専門性向上のため、国指定講習のカリキュラムの変更を手伝った。現在注力している「福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）」は、それぞれのスキルアップのみならず、将来的に、より高い専門性をもつ専門職としての制度化をも見据えている。

新時代への期待を感じている。「**福祉用具専門相談員の新時代**」**そこにある課題とは**

白澤氏が新時代の期待とし、課題とするのは、次の3点。

①日本のみならず、各先進諸国において、深刻な問題となっている介護人材の不足。それを補う方法として適切な福祉用具の利用があげられ、そのキーマンとなるのが福祉用具専門相談員である。

②日本独自の資格である福祉用具専門相談員の専門性が高まり、広まっていけば、全世界の介護シーンで活躍する新たな専門職となる可能性がある。

③開発・普及の途上にある介護ロボットの導入について、活用を考えた時、もつとも近くにいるのが福祉用具専門相談員である。

**第2部 シンポジウム**

**福祉用具専門相談員への提言**

**改正内容をクリアするだけでなく、質の向上につなげられる実力を**

第2部では、まず、本会が平成30年度老人保健事業推進等補助金の助成を受けて行った「福祉用具の提供に係る必要な専門性等についての調査研究事業報告書」が検討委員会副



**渡邊 慎一 氏**  
(わたなべ しんいち)  
一般社団法人  
神奈川県作業療法士会 顧問  
本会理事

委員長であり、本会理事の渡邊慎一氏により紹介された。平成30年度から、福祉用具の提案時には、機能や価格帯の異なる複数の商品を提示すること、福祉用具サービス計画書を担当ケアマネジャーに交付することが、義務付けられた。適切・適正なサービスの提供や、チームケアの観点から重要なことではある。しかし、現場の「作業負担増」に対する懸念や、より有効な運用方法などについても検討が必要ではないか。また、ご利用者やご家族、多職種に対して「わかりやすく」伝える技術も、より重要度を増す。（報告書はふくせんHPに掲載）

**「書面にする」多くのメリット**

更新研修（ふくせん認定）の修了



**野沢 昇悟 氏**  
(のざわ しょうご)  
株式会社美濃庄

者として登壇した野沢昇悟氏（株式会社美濃庄）は、「確かに事務負担はあるもののメリットが多い」と話す。選定提案の書面があることで、提案した際に同席できなかったご家族などにも理解してもらいやすい。担当者が変わっても、前任者がその機種をすすめた理由などの情報を関係者間で明確に共有できる。SV（スーパーバイザー）の認定も受けている野沢氏は、ケアマネジャーとのやり取りの際の工夫も披露。「特に説明する時間を設ける、読んでほしい部分に印をつけるなど。書面を1つのツールとして専門職間のコミュニケーションを深めることが、より良いサービス提供へつながります」（野沢氏）。

「複数提案は以前からやっていたという回答が多かったのは喜ばし



▲前列左から、岩元理事長、野沢昇悟氏、コーディネーターを務めた渡邊慎一氏





畑 憲一郎 氏  
(はた けんいちろう)  
厚生労働省老健局  
高齢者支援課課長補佐

いこと」と語ったのは、岩元理事長。ただし、提案をしても、記録に残していない場合が多かった。提案内容や検討、決定のプロセスを残すということには、福祉用具専門相談員が、その専門性を発揮するというだけでなく、ご利用者の理解を助け、自己決定を後押しするという重要な意味もある。「ケアマネジャーの方々から、福祉用具に対する理解が深まったなど、高い評価を得ている。サービスの質の向上のため、より一層そのスキルに磨きをかけてほしい」(岩元理事長)。

より適切なサービスを持続的に提供するために

助言者として出席していただいた厚生労働省の畑課長補佐は、「自由価格のよい面を活かし、バランスをとりながら、より適切な提供を心がけてほしい。」と期待を語った。

## 住環境整備と福祉用具サービス計画書の書き方!

出展メーカーによる機器プレゼンと複数提案提示のポイントから選定提案までの落とし込みを丁寧解説!

バリアフリー2019の2日目、4月19日(金)、「手すり」に焦点を絞った、住環境整備のワークショップを開催した。講師は、本会理事の金沢善智氏。本会賛助会員であるメーカー5社の協力のもと、各種手すりの実機を展示、プレゼンも折り込んだ実践的な内容となった。



金沢 善智 氏  
(かなざわ よしのり)  
株式会社バリオン代表取締役  
本会理事

福祉住環境整備は、手すりに始まって手すりに終わる!

金沢氏は、「手すりによって、ご利用者の安全だけでなく、生活の幅が広がる」と語った。中でも福祉用具貸与で導入できる、工事を伴わないタイプの手すりは、価

格面、導入のしやすさから、まず検討されるものの一つである。

従来、住宅改修による手すりとは比べると、固定性や安定性に課題が残るとされてきたが……今回、実機の展示とプレゼンに協力してくれた5社のラインナップをみると、「安定、強度はもちろん、ご利用者や設置場所の状況によってカスタマイズできる」といつてよい程の自由度を備えている」と金沢氏も感嘆。導入する際のポイントや可能性などについて語った。



▲アロン化成株式会社「アットグリップ」  
80cm～105cmまで無段階で伸縮可能な置き型手すり



▲株式会社シコク「SA手すり」  
固定手すりの機能も併せもつ新しいトイレ手すり



▲タマツ「まえてあ」  
付け外し可能な前手すりは天然木製。トイレの姿勢保持手すり



▲株式会社モルテン「ルーツ」  
生活動作などに合わせて選べる置き型手すりをシリーズ展開



▲パナソニックエイジフリー株式会社「クリンディ」  
コンパクトなベースで置きたい場所に置ける手すり



会場には各社実機展示が行われた

## 住宅改修事例

# 中途障害者の自立を目指した住宅改修

## 水廻り編

Sさんは途中で障害を負ったことから引きこもりがちでしたが、家族やケースワーカーの助言により、リハビリに積極的に取り組むようになった。この機会に自立できることを増やしたいという要望に沿って、機能回復の進展を見ながら改修を行った。

## ●トイレと入浴の自立に向けて

Sさんは、車いすで入れるスペースがあり、洋式便器で手すりがあれば、車いすと便器との移乗動作を含め自立できるが、改修前は男女両用便器(写真A)を使えずポータブルトイレを使用していた。これを洗浄機能付洋式便器に変更し(写真B)、幸いトイレ内スペースは車いす使用に十分だったので、入口の靴摺りを撤去して開口幅を拡げ、段差を解消した(写真C、D、E、F)。事前に通所リハのトイレでシミュレーションを行い、移乗動作や手すりの位置を確認した。手すりは腕を通して使うので、出幅120mmのものを2本取り付けた。

入浴はヘルパーと一緒にいるが、浴槽が深く入るのが怖いと訴えがあった(写真G、H)。シャワーチェアと同じ高さに設置した浅い浴槽への交換と(写真I)、床の高上げによる洗面脱衣室との入口段差解消を行った(写真J、K)。仕上げは素足でも冷たくないタイルを選んだ。手元でON/OFFできるサーモスタット付シャワー水栓に交換し、床高上げに伴いシャワー水栓の位置を変更した。改修後の浴室で動作確認を行い、手すりを2本取り付けた(写真L)。

## ●屋内の移動をスムーズに

Sさんの行動範囲は段差0mmになるように、居室、洗面脱衣室、食堂等入口の靴摺りを撤去し、扉の交換や補修を行った。廊下幅が狭いので、居室入口は内側にアウトセット引き戸を設置したが、洗面脱衣室とトイレは開き戸のまま開口部を拡げた。

## ●意欲を引き出す改修の効果

Sさんは排泄が自立し、入浴につ

いては浴室出入り、洗体の一部介助が要るものの浴槽出入りは見守りのみでできるようになった。自宅内で自立できる動作が多くなったので、家事の手伝いやリハビリにさらに積極的に取り組んでいる。外出もできるだけ自立できるように環境整備を行ったので、次回レポートする。

## 設計・施工のポイント

≫Sさんはリハビリを積極的に行っていて筋力も徐々に増えてきたので、排泄、入浴、屋内移動、外出等できるだけ自立できるように計画。合わせて古くなった設備、床・壁下地、断熱材を更新した。

≫機能回復の訓練中なので、進展を見ながらプランを合わせていくこととした。

≫2週間の工期中、連続して工事に入るためにSさんにショートステイをお願いした。

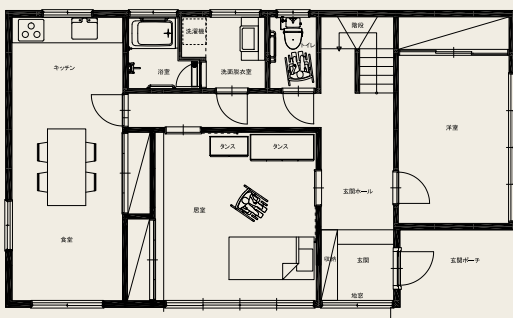


スタジオ・ヴォイス代表  
市瀬敦子さん

1995年から高齢者・障害者の住宅設計・リフォームに携わる。2002年、二級建築士事務所スタジオ・ヴォイス設立。2006年、NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会(せたふく)設立。「福祉住環境コーディネーター検定試験2級・1級公式テキスト」(東京商工会議所編)、「住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン」(彰国社)に事例提供。

## DATA

## 改修後図面



## 建物概要

専用住宅 木造2階建て1階部分改修 築40年

## 対象者

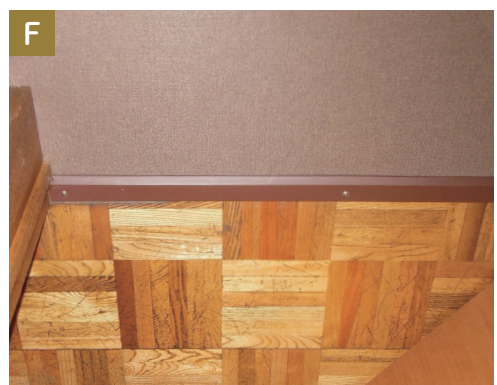
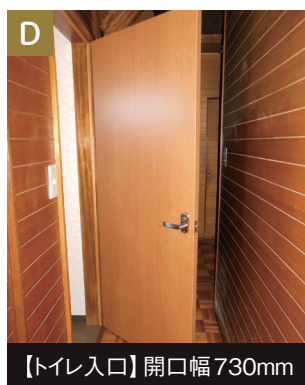
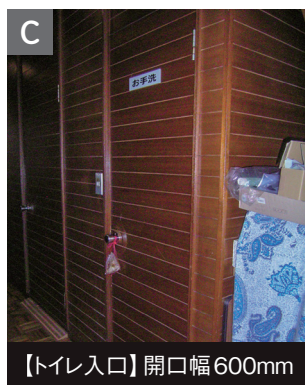
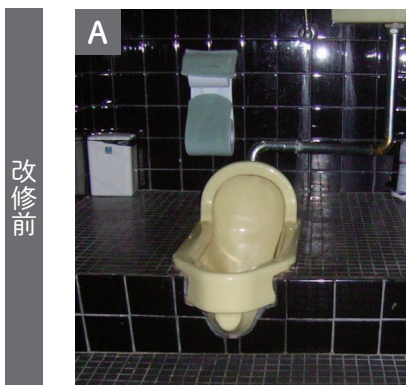
40代女性。病気の後遺症で両側下肢不全麻痺、下肢・体幹筋力低下による歩行障害。父母と同居。

## ADL

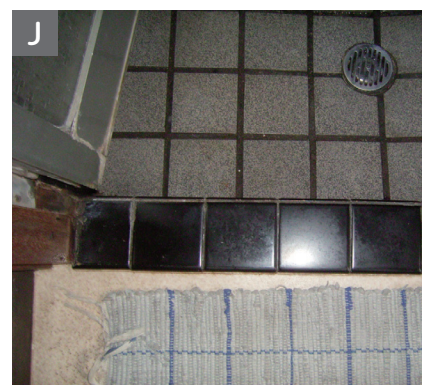
屋内では車いす自走、一部介助。屋外は車いす介助、通院・通所は父親が車で送迎をしている。歩行はつかまるところがあれば、数歩は可能。更衣・整容、食事、服薬管理等は自立。視力、聴力も問題なし。自分の意思の発現、他者とのコミュニケーションは問題なし。介護サービス等：訪問介護(入浴介助等)2回/週 訪問リハ・通所リハ 各1回/週



トイレの改修



浴室の改修



## 賛助会員の皆様、 いつもありがとうございます

株式会社モルテン  
株式会社ケーブ  
ラックヘルスケア株式会社  
シーホネンス株式会社  
株式会社松永製作所  
公益財団法人テクノエイド協会  
株式会社カワムラサイクル  
株式会社幸和製作所  
アロン化成株式会社  
パナソニックエイジフリー株式会社  
株式会社社会保険研究所  
株式会社ミキ  
パラマウントベッド株式会社  
日進医療器株式会社  
株式会社ランダルコーポレーション  
株式会社タイカ  
株式会社島製作所  
KDDI株式会社  
株式会社豊通オールライフ  
株式会社ウェルファン  
株式会社イーストアイ  
株式会社星光医療器製作所  
徳武産業株式会社  
矢崎化工株式会社  
株式会社ウイズ  
パラマウントケアサービス株式会社  
中央法規出版株式会社  
株式会社シコク  
株式会社スマート  
株式会社タマツ  
RT.ワークス株式会社  
小宮山印刷株式会社  
株式会社プラッツ  
シンエイテクノ株式会社  
株式会社ファクトリージャパン  
積水ホームテクノ株式会社  
ビズネット株式会社  
株式会社ニシケン

※発行日現在。入会順に掲載しています。



会場の様子

## 平成31年度全国ブロック長会議開催

去る平成31年4月18日(木)、全国ブロック長会議を開催した。全国37ブロックより、ブロック長や副ブロック長を含む33名が出席した。

福祉用具専門相談員更新研修(ふくせん認定)、会員を中心としたスキルアップ研修、SV研修など平成31年度の事業計画(案)が報告された。

令和元年は、FJC協会の業務移管にともなう会員向けサービス拡充検討委員会の年4回の開催を予定している。また、会員増強・プラスワン活動の目標人数を、年

度末3450名とし、職能団体としての影響力アップを目指す。

各ブロックにおいては、地域に根差した活動にも注力していく。

### 【来賓挨拶】

長倉 寿子氏

厚生労働省老健局高齢者支援課  
福祉用具・住宅改修指導官

### 【特別講演】

「介護保険制度における福祉用具・住宅改修について」

講師：畑憲一郎氏

厚生労働省老健局高齢者支援課  
課長補佐

### 新創刊「ふくせんレポート」 編集委員長より

ふくせんとFJC協会が合併し、ご愛読いただいていた両協会の会報誌が、新たな「ふくせんレポート」として生まれ変わりました。全ての読者に有意義な情報をお届けできるように、編集委員会も汗を流します。ご期待ください。

編集委員長 金沢善智

### ふくせんレポート 創刊0号

発行所 一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会  
〒108-0073 東京都港区三田2-14-7 ローレル三田404  
TEL: 03-5418-7700 FAX: 03-5418-2111  
URL: <http://www.zfssk.com/>  
発行日 2019年6月17日  
編集協力 株式会社 東京コア、株式会社 社会保険研究所

